

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

巨額のM&Aに頼らず、自らの力で会社の姿を変えた（ソニーグループ）

1. ソニーは00年代以降、ハードとソフトの融合で競合に後れを取り、スマートフォンを筆頭に伸びる市場を逃し続けた。ドローンや電気自動車（EV）では、同じ歴史を繰り返せない。Air Peak（ソニーグループが開発したドローン）は、たとえ後発でも最新技術のど真ん中で戦うというソニーの意思の象徴といえるだろう。
2. こうした新たな領域に挑戦できるのは、ソニーが業績面で完全復活を果たしたからだ。21年3月期の連結純利益は前の期比2倍の1兆1717億円となり、初めて1兆円を超えた。国内で長年ライバルと見なされてきたパナソニック（1650億円）の7倍の水準だ。株式時価総額は約13兆2400億円（6月18日）と、電機大手8社で唯一10兆円を超え、一人勝ちと言える状態だ。
3. どん底からの復活劇の立役者は2人の経営トップ、つまり前任の平井一夫氏と現任の吉田憲一郎氏だ。早稲田大学ビジネススクールの入山章栄教授は、「平井氏の時代から“感動を生む企業”というビジョンを掲げることで存在意義を明確化した。この戦略は吉田氏にも受け継がれている」と指摘する。特筆すべきは、巨額のM&A（合併・買収）に頼らず、自らの力で会社の姿をつくり変えたことだ。

（参考：「日経ビジネス」2021年6月28日号）

経営者のための理念・哲学

お釈迦様の本質は何か

窪田慈雲（代々木上原禅堂師家）

1. お釈迦様の本質は何かと考えると、結局それはあらゆる観念から「ほど（仏）けた人」だと思うんです。自分は偉い、自分はすごいんだという「私」を中心とした観念からほどけた人。修行を積み重ねて、そうした観念からほどけさえすれば、誰でも苦しみから離れて自由になれるですよ、とお釈迦様は教えています。
2. お釈迦様は、自分と自分を取り巻く世界との壁がなくなって、生まれたり死んだりする自分もなく世界もない。透き通った中身が空っぽの一如の世界に没入してしまった。要するに、覚悟を持って真剣に坐禅修行を続ければ、誰もが自分と同じような体験、悟りを得ることができる。お釈迦様はその見本を私たちに示すために人間界に現れたと思います。

（参考：「致知」：2021年8月号）

ワンポイント経営アドバイス

資産の入れ替えでキャノンを超えた

1. 古森重隆氏が2000年から経営トップを務める富士フィルムHDは、御手洗富士夫会長兼社長が1995年から率いるキャノンと、事務機やカメラの分野で「長老対決」を繰り広げてきたが、2020年度決算における「ROA（総資産営業利益率）」が前年度に続いてキャノンを超え、因縁の対決に打ち勝った。その理由を述べる上で、古森重隆会長が2004年から取り組んできた構造改革は外せない。
2. 古森氏は当時、低迷中だった銀塩フィルム事業からの撤退と医療関連事業の強化を決断。リーマンショックに見舞われながらも試行錯誤を重ね、医療機器だけでなく医薬品などにも手を広げた。こうした資産の入れ替えが、カメラや事務機の需要減をカバーし、ひいてはROA改善に寄与した。

（参考：「週刊ダイヤモンド」2021年6月26日号）

古典に学ぶ

不当なることさえなければよい

（解説）一般商売上のことにしても、いかに正直を主とせねばならぬとはいえ、この品物は何程で買い取ったものだが、今これこれに売るからいくら利益あるというようなことを、わざわざ世間に触れまわす必要もあるまい。要するに不当なることさえないならば、それが道徳上必ずしも不都合の行為となるものではあるまいと思う。

（参考：渋沢栄一「論語と算盤」：国書刊行会）